

箕面市立 多文化交流センターニュース

Minoh Multicultural Center News

発行：箕面市立多文化交流センター 指定管理者：(公財) 箕面市国際交流協会

No. 12

発行 2017年 10月

2016年度 事業報告特集

- P1~2 2016年度事業報告
- P3~4 ホームビジットプログラムと「きすな」グループ
- P5~6 多言語情報誌「みのおポスト」



2016年度の多文化交流センターの実施事業をお伝えします。

多文化交流センターでは、2016年度もたくさんのイベントや取り組みが行われました。中には、ここには書ききれない、たくさんの苦労や努力、出会いや学びのストーリーがあったと思います。そうしたすべての思いを通して、国籍や文化の異なる人たちの地域でのつながりが少しずつ広がり、深まっているを感じています。事業に参加、サポートいただいたボランティアの皆さん、市民の皆さまにあらためて感謝申し上げます。人と人のつながりを広げ、コミュニティの力をより豊かに耕していく、そんな事業づくりをさらに続けていきたいと思っています！

多文化交流センター年間利用者総数

(概算) 156,464人

[内訳]

図書館利用者数…………… 110,551人
 講座室など部屋の利用者数…………… 29,935人
 comm cafe 来店者数…………… 13,107人
 住民票等証明書の発行取次件数…………… 1,546件
 あいあいルーム(豊川南小地区福祉会)利用者数… 1,325人



■ 多文化なまちづくり

○国際協力都市・国際友好都市提携事業

- (メキシコ・クエルナバカ市、ニュージーランド・ハット市との交流)
- ・教員人事交流プログラムでは、ハット市から2人の教員が来賓。幼稚園、小中学校で交流。箕面市美術協会とハット市美術協会は作品の相互交換、創立60周年記念箕面市美術協会で展示の後、ハット市民絵画展を当センターで実施。
 - ・メキシコ・クエルナバカ市から4人の日本語研修生(2週間)が来賓。メイプルホールで開催された第24回「メキシコ文化の夕べ」には約300人が来場。

○多文化理解教育推進事業

- センターでの子ども向けプログラム参加者数…年間延べ100人
 夏休み自習室利用者数…延べ251人
- ・中高生の職場体験5人の受入(comm cafeや「多文化子ども保育」のお手伝い)
 - ・小学校多文化理解プログラム
 外国人講師登録者数…20人・13か国
 授業の実施…市内14の小学校(各2学年)
 - ・そのほかにも、延べ49人の外国人市民が地域の学校や団体などで43回の講演を実施。

○国際理解のための語学講座事業

- ・未就学児から大人まで、外国語を学びたい!というさまざまなニーズにあわせて、12クラスの語学講座(英語・スペイン語・イタリア語)を開催。
 受講者数:前期・118人/後期・107人

○事業協力

- 企業や団体、公的機関からもさまざまな相談や協力依頼。
- (例1) タイにある支社でタイ語と日本語が話せる人材を探している(流通関連企業)
- (例2) 唐辛子みその海外進出のために comm cafe シェフにアレンジレシピを考えてほしい(食品会社)



ボランティア交流会

外国人市民対象のモニタリング会

○多文化なまちづくり推進事業

- 各種交流イベントの開催
 年間89回/延べ参加者数1,408人
 多民族フェスティバル
 当日ボランティア…約150人
 出店ブース数…47団体
 来場者数…約3,000人
 協賛団体…128企業・団体
- ・「チーム・モイ(在住外国人市民のグループ)との語り合いカフェ」延べ参加者数52人・ブラジル出身の人たちが企画した多彩なイベント(ブラジルダンスナイト、フェスタジュリーナ、ブラジルブックカフェ)を開催
 - ・留学生ホームビジット・プログラムでは31家庭とマッチング。
 - ・「外国人市民を対象とした合同モニタリング会」には約60人が参加。海外での事業展開を計画している地元企業に、地域の外国人市民が商品の感想やアドバイスを。

○市民活動中間支援事業/ボランティア育成事業

- ・多文化ボランティアセミナーの開催
 開催時期:5月/10月
 参加者数:延べ108人
- ・当協会の推薦により市内の2つの国際交流団体(大阪ラテンアメリカの会、サワディープロジェクト)が平成29年度大阪府憲法記念日知事表彰を受賞。



小学校多文化理解

○コミュニティ・カフェ事業(comm cafe)

- 年間来店者総数…13,107人
 外国人シェフ…25人(15か国)
- ・その他、ベトナム出身のシェフたちが協力して企画したイベント「ベトナムの正月(テト)を楽しもう」や、豊川南小地区ふれあい納涼大会への出店など、地域とつながる様々な取り組みも。

ブラジルブックカフェ



○メディア掲載

産経新聞、よみうりテレビ「TEN」、ビッグイシュー日本版、リビング北摂中央、読売新聞、NPO法人グリーンズほか

○視察の受け入れ…22件

有田川町議会、(一社)ナレッジキャピタル、大阪府立能勢高等学校、草津市国際交流協会、ニュージーランド・プリミトン消防団、桜川市教育委員会ほか

■ 外国人市民のエンパワメント

○外国人市民のための生活相談事業

- 年間相談件数…337件
 医療同行通訳対応…340件(みのお外国人医療サポートネットと共催)
 箕面市英語指導助手(ALT)生活支援 対応件数…218件
- ・「国際交流協会ネットワークおおさか」と大阪弁護士会との連携を通じて、「外国人のための法律相談」を開始。
 - ・保育士さんによる子育て相談会や、外国人市民のためのジョブカウンセリングや面接の受け方講座なども実施。

○日本語学習支援事業(5プログラム)

- 年間延べ学習者数…3,384人
- ・その他、親子で参加できる日本語交流「さんさんクラブ」に、延べ157人の大人と延べ159人の子どもが参加。

○子どもサポート事業

- 対象:外国にルーツを持つ子ども(小~高)
 参加者数…延べ1,112人
 内容:日本語や教科学習の支援、交流と仲間づくり
- ・中高生を対象に多文化ユースサマーキャンプや交流イベント「Chat&Cook」などを開催。

○情報発信事業

- ・多言語生活情報誌「みのおポスト」(英・中・韓&やさしい日本語/隔月800部発行)
- ・みのおFM多言語情報番組「GOOD DAY みのお」(英・中・韓・タイ・スペイン/毎月2・4月~金曜日12:30~13:00)
- ・facebookページ「Minoh Multilingual」を設置
- ・月刊情報誌「めろん」(日本語/1,300部発行)
- ・多文化交流センターニュース(日本語/年2回11,000部発行)

留学生と家族の交流から生まれる「世界平和」 ホームビジットプログラムと、 「きずな」グループ

ホームビジットプログラムは、宿泊を伴わないかたちで、留学生とホストファミリーボランティアが家族として交流する事業。プログラムに参加するのは大阪大学で学ぶ留学生と箕面市及びその周辺に暮らすホストファミリーです。留学生がホストファミリーの家を訪れたり、一緒に買い物や食事などに出かけたり…など、交流の形式はさまざま。

一方で、こうした活動のサポートや留学生とホストファミリーのマッチングなど、事業のアレンジは、ホストファミリーボランティアを経験した4人の有志からなるグループ「きずな」によって行われています。「きずな」としては、どんな留学生であっても家族として受け入れてもらいたいので、マッチングにあたっては留学生の出身の地域は指定できないことになっています。そんな「きずな」のメンバーに話を聞きました。

日常の交流から世界平和を作っていく—この言葉だけを聞くと、少し現実感が乏しいように感じるかもしれませんが、「きずな」の方々のお話を聞いていると、とても自然なことのように思えてきます。

留学生とホストファミリーの交流は月に一度程度ですが、それは日本語の教室や、国際交流のイベント会場でもありません。交流の場が「家庭」であることが、ホームビジットプログラムの大きな特徴です。

「家庭」が中心となる活動ということもあり、「きずな」主催の交流イベントなどでは、人集めに苦労しています。また特別なおもてなしをするわけではありませんが、「余裕がないとこの活動はできない」といいます。子どもの受験など、家庭内の事情も大きく影響します。それでも活動を続けていくのは、やはり「人が好き」という思いがあるからです。「文化や風習の違いはありますが、結局は人と人の関係。人間の根本的なところは変わらないということ」を理屈ではなく体感できることがこの活動の醍醐味です」とのこと。



初めて留学生とホストファミリーが顔をあわせる「出会いの会」



遠足のランチタイム。
ホストファミリー手作りのお弁当をいただきます！



ホストファミリー宅でお正月を迎える留学生も

受け入れた留学生が世界各地にいると思うと、平和を願う気持ちは強くなったそうです。「テロや紛争などのニュースを見ると、自分たちのしている活動が無力に見える時もあるけれど、自分のできる範囲でできる事をするのが、世界平和につながると思ってやっています」という力強い言葉がとても印象的です。

身近な交流が世界平和につながる—このホームビジットの活動に、もっとたくさんの家族が関わってほしいと思います。

ホストファミリー
ボランティア
南正枝さん



約50年前、フランスに留学した時に現地の人に世話になり、その恩返しという気持ちで始めました。たくさんの留学生を受け入れてきたので、外国人と付き合う時も構えることなく自然体でいるようになりました。あまり過剰にお世話をしないことが長続きできた秘訣だと思います。必要なサポートを求められたらそれに応えるけれど、求められていないことをあれこれ世話することはありません。いろいろな思い出がありますが、フランスからの留学生に大きな日本人形をあげて、彼女がそれを背負って飛行機に搭乗した姿などは微笑ましく思い出します。ベトナム人の留学生とはずっと年賀状のやり取りをしています。

ホスト
ファミリー

留学生

ホストファミリー・
城野さん(左)と
一緒にお食事をする
ヌーシンさん(右)



ボランティア
グループ
「きずな」

大阪大学

30年前、子育て中に社会から取り残されるような気持ちになり、社会との接点を持つとうとして始めたのがこの活動でした。初めはホストファミリーとしてかかわっていましたが、もう少し積極的に関わりたくて、子育てが一段落したときに「きずな」に参加しました。留学生たちのお世話をするつもりでしたが、多様な見方や価値観を知るきっかけとなりました。結果的には自分が成長させてもらったような気がします。これからの時代は「寛容の精神」が最も大切になってくると思います。そのことを身をもって学んだ活動です。

ホームビジットグループ
「きずな」
池上純子さん

フランスからの留学生・
マリナさん(左)と池上さん(右)。
大山崎ウィスキー工場にて。



きずなイベント



餅つき大会の様子

ボランティアグループ「きずな」はホームビジット活動のサポートに合わせて、留学生とホストファミリー、そして地域の人々が交流するためのイベントも企画しています。

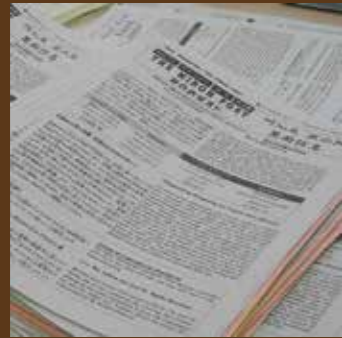
- (2016年度の例)
- 6月 春の遠足「大阪くらしの今昔館」
 - 7月 留学生・外国人市民によるスピーチ交流会、秋期ホストファミリー説明会
 - 10月 遠足「池田城址公園」
 - 11月 多民族フェスティバル「着物ショー」、餅つき大会
 - 2月 春期ホストファミリー説明会

次回のHF説明会(春期)は2018年2月に開催します。

大阪大学国際教育交流センター
CIEE Center for
International
Education and
Exchange
大阪大学
国際教育交流センター
センター長 有川友子先生



読者に寄り添う多言語情報誌をめざして 多言語情報誌 「みのおポスト」



箕面市の広報紙『もみじだより』の表紙と裏表紙に「みのおポスト」の案内が載っているのを見たことがありますか？『みのおポスト』は、現在『もみじだより』の一部をやさしい日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語の4言語で読むことができる、外国人市民向けの情報誌です。

在住外国人にとって生活するうえで必要となる情報を受け取るには、言語や国・地域によって異なる制度が大きな壁になります。その壁を少しでも低くするために、多言語情報誌『みのおポスト』が発行されています。今回は韓国・朝鮮語版、日英版のグループのお二人ずつからお話を聞きました。

活動をつづけるうちに 変わる意識

市や多文化交流センター、国際交流協会からのお知らせを、「やさしい日本語※」、3言語（英語、中国語、韓国・朝鮮語）への翻訳、レイアウト、印刷、発送すべてをボランティアメンバーが担っています。メンバーの国籍や属性はさまざま。一見すると単なる翻訳だけの活動に見えるのですが、実はメンバーたちの「読者に寄り添いたい」という思いが大きな原動力となっています。

『みのおポスト』の編集は、まず市報の文章を「やさしい日本語」にすることからはじまります。最初は「やさしい日本語」の基準がわからず苦労したとか。たとえば改修した家のことを「お金をかけて直した家」と書いたが、「かけて」が難しいので、「使って」に変更するなど工夫をこらしています。

「やさしい日本語」の原稿を元に、各言語への翻訳作業に入ります。今度は日本語がやさしすぎると、翻訳が難しくなったり、肝心の意味が伝わりづらくなったりということがあります。このような場合は、グループ内で相談や意見を交わし、プラスアルファの説明をするなど、「正しく、伝わる」情報を意識しています。

外国人市民がどのような情報を必要としているかを肌で感じている外国人市民



印刷や発送作業などは言語グループを超えて一緒に
行います。作業中は雑談で盛り上がることも。

と、制度や慣習を知っている日本人と一緒に活動することで、情報を受け取る側に立った誌面作りができています。活動を続けていくにつれ、翻訳のスキルアップだけでなく、他者を思う気持ちや違う視点で物事を見たり、情報を読みとく力、行政や日本社会のしくみなどにも関心が大きくなってきたそうです。

このように精力的に活動しているメンバーですが、『みのおポスト』が本当

に情報を必要としている外国人市民に届いているのだろうかというところが、いつも気がかりです。

最近、外国人市民へのインタビュー記事の掲載にも挑戦。外国人市民の生の声を載せることで、実際に困っていることや、共感を伝えたいと思っています。それによって『みのおポスト』を手にとり、必要な情報にアクセスできるチャンスが増えてほしいと、日々奮闘されています。

※やさしい日本語：簡易な表現を用いる、文の構造を簡単にする、漢字にふりがなを振るなどして、日本語に不慣れな外国人にもわかりやすくした日本語のこと。



グループコーディネーター
はまうち れいこ
浜内 怜子さん
(日英版グループ)

民間企業を退職後、2012年から参加しています。企業では社内報の発行にも携わっていました。活動をはじめた時と現在では、「国際交流」の意味が大きく変わり、「多文化共生」という言葉が私の辞書に加わりました。協会の英訳、「Global Awareness（すべてに意識を向ける）」という新しく学んだ視点を心に刻みつつ、活動しています。



はたの けん
波多野 健さん
(日英版グループ)

2015年から活動に関わっています。海外駐在での生活・子育てに戸惑った経験から「在住外国人市民の視点で物事を見よう」と心がけています。翻訳をするときは、5W1Hをはっきりさせ、英語が第2言語の読者にもわかりやすく、誤解が生じないような表現と語句を使うようにしています。



ほん みら
洪 美羅さん
(韓国・朝鮮語版グループ)

日本在住20年以上で、ボランティア歴も10年ぐらい。情報誌を作る側ですが、読者という立場でもあります。活動を続けていることで、外国人市民に提供できる情報量が増えました。日本に長く住んでいるので、最近の韓国で使われている言葉を時々知らないことがあります。でも同じ韓国・朝鮮語グループのメンバーと相談することで、新しい発見があることもこの活動の楽しみです。



いむ きょんひ
林 慶姫さん
(韓国・朝鮮語版グループ)

日本に来て2年です。活動歴は約1年です。最初は日本語教室の学習者でした。まだ日本のことをよく知らないからこそ、言葉の壁がある外国人市民が理解しやすい単語や、必要としている情報がよくわかります。『みのおポスト』の「やさしい日本語」は、私でも理解できますし、メンバー同士で意見交換もできるので、翻訳の作業にやりがいを感じています。

日常生活に関わるちょっとしたお知らせから、医療制度や防災など、時には命にかかわる内容も含まれる「生活情報」は多岐にわたります。国籍や言語の能力を問わず、行政情報はすべての人に平等に届けられる必要があります。本来なら行政による毎月全ページの翻訳・発行が求められています。しかしながら、現状では日本社会の意識はまだ薄く、ボランティアの力に頼らざるを得ません。

この「みのおポスト」があることで、外国人市民が抱える生活上の不便さが少しでも解消できればと願います。また、外国人市民が日々感じているしんどさを、同じ地域で暮らす日本人が理解するきっかけにもなってほしいと思います。

| | |
|-----------------------------|---|
| 発行日 | 偶数月の15日頃(年6回発行) |
| 発行部数 | 800部 (市役所・市内公共施設・近隣の国際関係機関等に送付・配架。 外国人市民に限り、希望者には無料で送付。協会ホームページからもダウンロード可) |
| ボランティアメンバー (2017/8/3 現在) | 19人 (韓国・朝鮮語版グループ4人 / 中国語版グループ6人 日英版グループ9人(うち、編集・翻訳7人、英語ネイティブチェック2人)) |

「みのおポスト」は、こちらからダウンロードできます。→ <http://mafga.or.jp/ability/information/>

information

箕面市立多文化交流センター (Minoh Multicultural Center)

指定管理者：公益財団法人箕面市国際交流協会
MAFGA (Minoh Association for Global Awareness)
〒562-0032
大阪府箕面市小野原西5-2-36
電話・FAX：072-734-6258
URL：<http://minoh-tabunka.jp/>
開館時間：9:00～22:00
休館日：毎週月曜と年末年始
(ただし、祝日の月曜は開館)

定例事業 (国際交流協会)

場所：多文化交流センター
問合せ TEL：072-727-6912 (国際交流協会)
FAX：072-727-6920

● 日本語教室

- －「ささゆり」(初級読み書き)
毎週火曜 10:00～12:00 ※保育あり(定員10名)
- －「あかね」(初級会話)
毎週木曜 10:00～12:00 ※保育あり(定員10名)
- －「ひまわり」(交流型日本語教室)
毎週金曜 10:00～11:30
- －「さんさんクラブ」(おやこで日本語交流)
第1・3水曜 10:00～11:30
- －「萱野にほんご」※場所：らいとびあ21
毎週金曜日 19:00～20:30

● 外国にルーツをもつ子どもサポート事業

対象：小学生～高校生

- －学習サポート「さぼると」：毎週土曜 10:00～11:30
- －居場所づくり「こどももっと」：毎週土曜 13:00～16:00

● 多言語生活相談

毎週火曜 11:00～14:30 (対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語、ベトナム語、フィリピン語)
※ベトナム語・フィリピン語は第2・4火曜のみ)

多文化交流センター施設のご利用

● 貸室

初めて貸室を利用される場合、「利用者登録」が必要です。登録の手続きは、窓口のみで受付(9:00～17:00)をしております。

* 貸室：講座室A・B・C、会議室、ミーティングルーム兼学習室

* 時間：午前(9:00～12:00)
午後(13:00～17:00)
夜間(18:00～22:00)

* 料金：午前(930円)／午後・夜間(1,230円)

● 子ども活動室(プレイルーム)：事業で使用していない時間に一般開放(9:00～17:00)
専有利用(有料)については、お問い合わせください。

● 印刷室(2階)

* 時間：9:00～21:00

* 料金：製版1枚45円・インク代10枚5円

● コピー機(1階事務所内)

* 時間：9:00～22:00

* 料金：1枚10円(白黒のみ)

定期発行物 URL:mafga.or.jp

国際交流協会HPからダウンロード可

- ◎ 月刊情報誌「めろん」：毎月最終水曜日発行
- ◎ 多言語生活情報誌「みのおポスト」：隔月発行
やさしい日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語
- ◎ 箕面市立多文化交流センターニュース：年2回発行

comm cafe URL:www.commcafe.org



世界の家庭料理を日替わりシェフが提供！
地域で暮らす外国人市民の社会参加を促進するとともに、誰もが等身大で交流できるカフェです。

* 時間：9:30～17:00

(ランチタイムは火曜～土曜 11:30～14:00)

※売切れ次第終了)

カフェ直通 TEL：072-734-6255

箕面市立小野原図書館のご利用

開館時間：10:00～17:00

休館日：毎週月曜と年末年始

(ただし、祝日の月曜は開館)

催し：木曜 10:30～ よちよち♪えほんタイム
15:30～ てくてくえほんタイム

第1・3日曜 14:30～ てくてくサンデー
TEL：072-749-5176

センターニュース No.12

●編集・発行 箕面市立多文化交流センター 指定管理者：(公財) 箕面市国際交流協会

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西5-2-36

TEL/FAX：072-734-6258 <http://www.minoh-tabunka.jp/>

●発行日 2017年10月1日

